

本年度の 重点目標	(1) スクールミッション及びスクール・ポリシーを基軸に全ての教育活動への反映 (2) ビジネス社会を意識した規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (3) 「主体的・対話的で深い学び」を授業によって確立し、自ら学ぶ姿勢を育成 (4) 一人一台タブレットを中心としたICT教育の持続的な推進 (5) 「全日制単位制キャリアビジネス科」3年目を迎えての魅力と特長の確立 (6) 「部活動改革」に伴う持続可能な部活動体制の検討と樹立 (7) 「愛知県公立学校働き方改革ロードマップ」の履行に向けた業務改善		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	・式典や管轄業務について、計画的な準備と安全かつ円滑な遂行 ・PTA役員との連携を図り特色あるPTA活動の実施	・各組織と連絡・調整を図り、共通認識のもとで、式典や管轄業務の遂行が円滑に運営できるようにする。 ・PTA役員との連携を進め、PTA役員・委員がPTA活動をしやすいようにする。	・早めに対応し、連携を密にしながら活動を進める。 ・PTA役員との連携を図りながら、活動を進める。本校にあった特色のあるPTA活動を目指す。
教務部	・中川青和高校での円滑なカリキュラムの運用と課題改善 ・スクールエンジンの運用方法の確立 ・観点別評価の定着と評価方法の課題改善と各種書類の見直し ・生徒の読書活動の推進	・4年次以降の教育課程や対象生徒に関する事項を準備する。 ・校務支援システムによる成績処理、指導要録の作成、調査書の作成方法を確立させながら改善を図る。 ・観点別評価用の成績処理関係の書式の作成と改善。 ・図書委員会(生徒)による図書館だよりの定期的な発行と生徒の主体的な活動から内容の充実を図る。	・教育課程委員会や教科主任会を開催し、計画的に進めながら改善を図る。 ・書類の作成方法を確立し、マニュアルの作成に着手する。校務支援システムの更新に対応したマニュアルに変更させながら改善を図る。 ・単位認定委員会や教科主任会を通じて、周知、改善を図る。 ・生徒が委員会活動の一環として図書館だよりを主体的に作成できるように働きかける。
生徒指導部	・基本的生活習慣の確立 ・生徒指導規定全般の検証と見直し ・委員会活動の活性化 ・支援が必要と思われる生徒への他分掌と協力した援助・指導 ・外国にルーツを持つ生徒に対する異文化理解も含めた指導体制の確立	・常習的な遅刻者に対して個に応じた効果的な指導法の検討をする。 ・今年度から変更される規定・指導に重点を置き、検証と見直しを行う。 ・「生活委員会」の役割を交通安全・生活安全・災害安全の3つに明確に分け、活動の活性化を図る。 ・学年、相談部、保健部と情報を共有し、連携した指導の実施。 ・関係部署と情報を共有するとともに、個別のヒアリング等を実施し、相互理解を深める。	・指導内容等について、校内外とも周知徹底を図り、各学年、各分掌、保護者との連携を密にする。
進路指導部	・生徒個々の進路実現に向けた進路指導の充実	・進路選択の充実 ・基礎学力の向上 ・求人票のICT化 ・コミュニケーション能力・マナーの向上 ・他分掌との連携	・進路指導の各担当者、担任との相談を密にし各自の望み進路実現となるようにする。 ・ハローワークと連携、職業意識の向上。 ・関係分掌と連携し、適切な指導・助言。 ・朝学習・ガイダンスの積極的活用。 ・タブレットの効果的な活用。 ・社会人講師・インターンシップ等活用。
保健美化部	・心身ともに健康な生徒の育成 ・緊急時に備える体制の確立 ・美化意識の向上及び清掃活動の充実とゴミの減量化	・委員会を随時開催し、各クラスでの問題点や改善点などの情報交換を充実させる。 ・救急法講習会を充実させ、緊急時に備える。(エピペンの使い方含む) ・環境美化意識が高まるような方策を検討する。特に衛生設備を重点に環境整備や美化に努める。	・保健委員、美化委員による自発的な活動を促す。 ・必要に応じて、相談部など他分掌及び学年との連携を図りながら対応する。 ・教員向け救急法講習会を早い時期に計画する。 ・トイレの正しい利用方法の普及・徹底と清掃活動の充実に努める。 ・校外から持ち込んだゴミやプリント類は持ち帰るように働きかける。

項 目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒会	- 生徒が充実感や達成感を得るような生徒会行事の実施 - 部活動の活性化	- 学校行事において生徒会執行部防冲心となり、生徒自身が学校行事の運営にあたるよう、各種委員会を中心に組織を構成する。 - 部活動を改編、精選し、より生徒の積極的参加を促し活性化を図る。	- 各行事において、多くの生徒で役割を分担し、確実に遂行できるようサポートすることにより、生徒自身が自主性をもてるようにする。 - 各部活動の活動内容の見直しなどを行う。
相談部	落ち着いた学校生活が送れるように、必要な支援や精神的サポートを行う	- 迅速で丁寧な対応を目指す。 - 心理検査を実施し、思考特性や集団特性の把握をする。 - 年2回程度精神健康調査を行うことで、各クラスの状況を把握といじめ等の早期発見をする。 - 学校内外の連携をスムーズに行う。	- 人権に留意する。 - 個人情報保護に留意する。 - 本人、保護者が要望していることを適切に把握し、必要な対応をする。 - 個人の状況とクラスや周囲の状況を確認し、必要なタイミングで必要な支援ができるようにする。 - フットワークとチームワークを大切にする。
教育情報部	- 生徒用タブレット適切な利用促進 - ICT活用時の安全意識の向上	- ルールブックを定着させ、積極的にタブレットの利用を行う。 - 教室等の環境整備を実施する。 - 現職研修を実施する。	- 生徒自身に適切な利用方法を考えさせることに留意する。 - 個人情報の取り扱いに留意する。 - 各教員がICTの利用促進を努める。
1年生	- 豊かな人間性の育成 - 基本的生活習慣の確立 - 基礎学力の定着	- 学校生活をととして、自立した大人として必要な人間性を高める。 - 衣食住の生活リズムを整え、時間や約束を守らせる。 - 朝学習や授業をととして高校生として必要な基礎学力の定着をさせる。	- 保護者との連携を密にし、協力体制を築く。 - 生徒理解と状況把握を努める。 - 各分掌、教科と連携して生徒に必要な支援を把握する。保護者の理解を得よう連携を保つ。
2年生	- 適切に目標を設定する力の育成 - 目標に向かって努力を継続する力の育成 - 集団行動を意識し、何をすべきかを自ら考えて行動できる力の育成 - 相手の立場に立って、考える思いやりの心の育成	- 生活面、勉強面、資格、部活、進路などの目標を具体的に立てさせる。 - 定期的に目標への進捗状況を確認させ、高い意識を継続や目標の修正を行わせる。 - 修学旅行を目標として、集団行動を意識した学校生活をおくらせる。 - 自分自身の行動や言動によって、相手がどのように感じるかを意識させる。	- 各分掌、教科と連携して生徒に必要な支援を把握し、モチベーションを維持させる。また保護者の理解を得よう連携を保つ。 - 生徒の実態を理解し、実態に合った指導を努める。 - クラス担任だけでなく、学年や教科担任が連携して指導する。
3年生	- 進路目標の実現 - 社会に通じる人間力の育成 - 基礎学力の向上	- 進路指導をととして自己理解を深め、進路目標の実現に向けて粘り強く最後まで努力させる。 - 学校内外の授業や活動をととして社会に求められる人間力を育成する。 - 朝学習や授業をととして社会人として必要な基礎学力を身に付けさせる。	- 保護者の理解を得よう連携を保つ。 - 各分掌、教科との連携を強化する。 - 生徒一人一人と面談を重ねて、進路先を決めていく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		(1) 教育活動全体をととして、基本的生活習慣の確立・基礎学力向上に向けた取組を実施することができたか。 (2) 外部との連携や地域活動をととして、地域に信頼され必要とされる学校づくりを進めることができたか。 (3) 本校グラントデザインを基に、教科・科目の視点から魅力ある商業教育が実践できるよう取り組めたか。 (4) 人権教育並びに情報モラル・いじめ防止等に関する具体的な取組について、確実に行うことができたか。 (5) 定時制校日の有効活用を含め、時間を意識して業務を進める意識改革を推進できたか。	